

西日本政経
2月例会

「改革実現に解散を」

東工大大学院 橋爪教授が講演



西日本政経懇話会の2月例会が二十日、飯塚市川津のグランドベルホテルで開かれ、東京工業大学大学院の橋爪大三郎教授が「小泉政権二〇〇二年の課題」と題して講演した。橋爪教授は、小泉純一郎首相が構

造改革を実現するためには「解散、総選挙、小泉首相の自民党離党、民主党政権」との主張を述べた。また、新党結成までやるべきだ」と政界再編の必要性を訴えた。講演要旨は次の通り。

一、米国の同時多発テロ以降、世界の情勢は大きく変わった。日米安保条約は、事前に攻撃を予測できなかった場合の対応が定められている。だが、テロ攻撃を予測するのは困難で、米国が日本を守れるか不安な状況になっている。日本はテロ対策に対し、日米安保条約の枠を外れた部分で、一定の役割を果たすことが求められている。

一、小泉首相の構造改革は正念場を迎えている。支持率が下がっている。また、高いレベルを維持している。改革への抵抗があれば、支持率を急落に解散、離党、所

望結成で第二次小泉政権の樹立を目指すべきだ。

一、日本は二十一世紀の戦略として「小型で活カある国家」という目標を決めるべきだ。国会機能強化した政治改革、株主の権利を重視する企業改革、東アジア国籍の在住外国人に対して、公民権を認めるなど「国家としての質」を高める必要がある。

Q28

日本事情

日本の友達は平気で自分のことを
無神論者だといいます。
理解できません。

日本人の宗教観って
どうなっているんですか？

外国人が日本人によくきく質問の中に、「宗教がらみ」の質問があります。宗教がらみが苦手といわれる日本人。国際社会での円滑なコミュニケーションと相互理解のためには、どう答えればいいのか？ どんな知識が必要なのか？ 今、注目の『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）の著者である東京工業大学の橋爪大三郎教授にお話をうかがいました。



回答 橋爪大三郎 (はしづめ だいさぶろう)

橋爪先生ならこう答える！

そうねえ、理解しにくいかもしれない。日本人に宗教の質問をすると、たいていドギマギして、はっきり返事がかえってこない。なぜかと言うと、日本人はふだん、宗教や信仰についてあまり真剣に考えたり、熱心な信者としてある宗教を信じたりすることがあまりないからなのです。でも、日本人にまるで信仰心がないわけでもないし、宗教に理解がないわけでもない。ある

点では、とても宗教的な人びとであるという側面もある。

日本人はほぼ全員、仏教徒ということになっています。日本中いたるところにお寺があります。仏壇がある家も多いし、どの家族も、どこかのお寺、どこかの宗派に属しているのが原則なんです。でも、ふだんはほとんど仏教に関心がない。どれくらい関心がないかというと、一生に一度、お葬式をあげるときにお世話になるくらいです。こういう家庭が大部分なんです。変で

しょう？ 確かに変なのですけれども、逆に、お葬式になるとお寺に連絡をして、僧侶にお経をあげてもらう。そして遺骨は、お寺の管理する墓地に埋葬するのがふつうです。では、どうしてそれ以外のときにはお寺と連絡をとらないのか。

結婚式は、教会で挙げるのが流行りです。ふだん、キリスト教と縁のない人でも、ウェディングドレスを着たいので、どうしても教会で結婚式を挙げることになるんですね。全然信じていないのかというと、そういうこともなくて、1カ月ぐらい、日曜日に教会に行って礼拝に参加したりする場合があります。また、お正月には、近所の神社に行き、お賽銭をあげたり、初もうでをするんです。どれくらい大勢かと言うと、お正月から3日間に日本人のうち二人に一人は神社に行くんです。日本人は、宗教を「年中行事」(お正月は神道、七夕は道教、お盆は仏教、クリスマスはキリスト教)と考えているんです。

どうしてそうなったかと言うと、日本の歴史に関係がある。二千年ぐらい前、日本人は日本にもともといる神さまを信じていました。その後、仏教がやって来た。仏教も信じました。その後、明治になってキリスト教がやって来ました。キリスト教も“いいもの”だと思った。

日本人のもともとの信仰には、神さまが大勢いたんです。なぜ神さまが大勢いたか？ それは、それぞれの地域

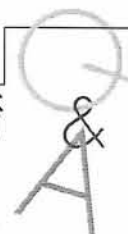
社会(コミュニティ)に神さまがいたからです。コミュニティはいっぱいあるので、神さまも大勢いる。コミュニティは仲良くしなければいけないので、神さまも仲良くしていたんですね。仏教が来たときに、仏さまも大勢いたので、“神さまのようなもの”だと思いました。神さまと仏さまも仲良く共存することになった。最後にキリスト教がやって来た。キリスト教の神さまは一人ですけれど、神さまがもう一人増えたのだと思いました。これも仲間に入れてあげようということで、みんな一緒に有難いと思うことにしたんです。キリスト教からすると、これは不可能なはず。仏教からすると、やはり無理なはず。でも、もともとがみんな仲良く、どのコミュニティも大事にしようというのが、根本的な信念だとすると、日本人にとっては、これは自然な態度だったのです。

日本人が恐れていること。それは、宗教と宗教が争うことです。日本人が望ましいと思うこと。何を信じてもいいけれど、日本人の間では、殺しあったり、戦争をしたりしてはいけない。それが大事だった。

この日本人の態度は、何に似ているか？ ひとつはプラグマティズム(pragmatism)。現実生活を大事にする。神さまや仏さまより、人間が大事だと思っているんです。次に、シンクレティズム(syncretism)。シンクレティズムは、混淆主義と訳すのですが、いろ

外国人がよくきく

日本語・日本事情



んな宗教のつぎはぎ・パッチワークです。あと、アニミズム(animism)。アニミズムとは、さまざまな現象、物や出来事の背後に神さまか靈魂みたいなものがあるという考え方です。例えば、雷も神さま、太陽も神さま、稲も神さま、全部神さまです。次に「神さまと仏さまは同じ」という主張が、本地垂迹説です。そうすると、仏さまもまあ似たようなものだということになります。日本人は、これ以上は深く詮索しない。キリスト教のことも表面的にしか分かっていません。でもそれで十分だと思っている。これが日本の平均的な姿ではないでしょうか。

橋爪先生の解説！

日本人が真剣に宗教を信じていないと説明すると、信仰の厚い外国人のなかには、びっくりしたり、ショックをうけたり、誤解をしたりする人もいます。中国人の場合、中国人も同じように現実世界、特に政治が大切だと思っているので、日本人も似たようなものなんだ、でも日本人は、政治ではなくて経済を大切にしているんだな、と思う可能性がある。ムスリムの場合、神中心にものごとを見ているので、違和感を持つ可能性があります。

インド人の場合、現世はどうでもよく、宗教的真理が大切だと思っている人もいるので、自分たちとは反対の価値観を持っている人びとだと思える可能性があります。敬虔なクリスチャンの場合、日本人は本当の神を信じることができないで、神とよく似たものを、しかも不真面目に信じている、気の毒な人たちだと理解する可能性があります。

そこで、日本人についてもう少し説明するとすれば、神や仏を50%ぐらいしか信じていないからといって、日本人は現世中心主義のエゴイストではないんです。もし、一神教の人たちが神を信じなくなったら、極端な虚無主義者になるか、大変なエゴイストになるかどっちかだと思います。神がいるので、自分の欲望などを抑えて、道徳的にしているわけです。日本人の場合は、そうっていない。神や仏の信じ方も50%程度だけど、自分の信じ方も50%程度。他人の前では他人を、自分が所属するコミュニティとか企業の中では、場合によってはそちらを優先させるという行動をとっています。だから日本人の社会秩序はとてもよく維持されていて、犯罪率も少ないんです。

どういうことかと言うと、キリスト教のモデルでは、神さまが実在して、神さまが創った最高の存在である人間

がいて、あとのものはプラス・アルファなんです。会社も人間がつくったものだけど、壊れる。神が創ったものじゃないから。それに対して人間個々人は神さまが創ったものだから、会社より個々人のほうが大事なんです。そこで、会社のために個人が犠牲になるという論理は出てこない。日本の場合は、神さまの信じ方が50%で、また、神さまが人間を創ったわけでもない。そうすると、人間は一人で、集団は大勢。多勢に無勢で、個人の我を最後まで押しとおすことは難しいんです。そこで、神さまと個人の間にある集団が神さまや個人に負けず劣らず、場合によると、それ以上の大きな存在感、現実感を持ってくる。それが忠誠の対象になるわけです。となると、エゴイストなんて育たない。エゴイストは、集団では嫌われるから。信仰が流行らない理由も、強い信仰を持つと、集団よりも神さま、そして神さまを大事にしている自分を大事にするからなんです。こんなふうには、社会の力学が違っているんですね。

国際化との関係で言うと、こうした村とか企業とか（これらを、全体社会より小さいので、中間集団という）は、日本人だけが集まっている場合、効率がいい。説明しなくても、みんな進んで協力するからです。でも、日本人じゃない人が入っていると、話が違ってくる。会社や組織などの中間集団がこういうものかに関して、個人を優先する考え方と、集団に身を預けてしまう

日本人の考え方との間に違いがあります。これが、日本の国際化がなかなかうまくいかない理由です。日本人がアメリカの会社に就職したりすると、なんてドライなんだろうと思ったりする。一方、アメリカ人が日本の会社に就職すると、個人の自由を認めないとか、なんかネトネトしていて気持ち悪いか、最後は受け入れてくれないとか感じて、いろんな摩擦が起こるかもしれませんね。では、どうしたらいいか？

言葉でバイリンガルというのがあるけれど、日本人の行動パターンもバイリンガルみたいにできないか。つまり、日本社会で日本人を相手にして行動するときには、ある程度日本社会のルールを理解しながら、根回しなんてこともやればできる。また、外国（例えば欧米）の企業などに入ったり、外国人と付き合う場合には、外国人の考え方を理解して、コロッと人格を切り替えて、ドライで、合理的な行動もできるようにする。本人の負担はちょっと増えますね。バイリンガルの社会人は、二倍の努力をして、二つのパターンを身に付けるということです。なかなか大変ですね。それだけでなく、その二つのシステムが葛藤を起こすこともあり得る。どっちが本当の自分なの、と。

国際化が進むこれからの世界では、さまざまな文化が出合うので、多文化の中のバイリンガル現象は、ごくふうに起こると思います。例えば、インド人がアメリカに行っちゃったとか、

外国人がよくきく

日本語・日本事情



中国の人がムスリム世界で生活しているという場合も、そこで、現地に溶けこもうと思ったら、必ず似た問題が起こると思います。日本人だけの問題じゃないんです。外国人の理解というのは、どっか遠くにいる人を単に理解するという意味じゃなくて、自分がどう行動するかという問題なので、バイリンガルの能力を身に付けていくことが必要になる。外国の人びとが日本語を学ぶのも、基本は、バイリンガルになろうとしているわけです。ですから、日本語を教える人たちは学習者に、こういうことを理解してください、じゃないと日本語を話せませんよ、と教えてほしいですね。

最後に無神論という言葉についてですが、これは、日本人の宗教的態度を表すのにふさわしくないですね。無神論というのは、一神教的な神は存在しないという強い信念のことをいいます。一神教的な神が存在するか存在しないか、ぎりぎりのところまで考えて、考えて、考え抜いて、自分で決断して、神が存在しないと考えることにした人のことをいうのです。ふつう、日本人はそこまで真剣に考えていないから、無神論者という言葉は、日本人を形容するのにはふさわしくない。軽々しく使う言葉ではないんです。

無神論者といえば、ふつう、まずマルクス主義者という意味になる。唯物論者にとっては、当然、神はいないわけで、マルクス主義者は全員が、無神論です。マルクス主義で有神論は、あり得ない。だから、世の中で最も人数の多い無神論者はマルクス主義者ですね。

マルクス主義者以外にどんな無神論者があるかという、あとはニヒリスト。マルクス主義者は、神はいなくても、ほかに何か大事なものがあると思っている人たちなのに対し、ニヒリストは、大事なものなんか何もないと思っている。やはり日本人にはふさわしくないですね。それから、アナキストやテロリスト（場合によっては、神を信じているアナキストやテロリストもあり得るけれど）。要するに無神論者とは、欧米的文脈で言うと、「過激派」みたいな意味になる。パーティーなんかでうっかり、「私は実は無神論者です」って言って、半径2mくらいがシーンとしてしまっても知りません。気を付けてください。

（東京工業大学教授）